

「福井ふるさと百景」の選定と百景に基づく景観施策について

About the Selection, Use, and Preservation of
“The 100 Hometown Views of Fukui”

福井県総合政策部ふるさと地域振興課

はじめに

- I. 百景の目的と選定の経緯
 - II. 百景の特徴
 - III. 百景に基づく県の景観施策
- おわりに

福井県では、「ふるさと納税」や「ふるさと帰住」、「ふるさと知事ネットワーク」など、さまざまなふるさと政策を積極的に推進しています。これらの政策は、県民の皆さんの「ふるさと」への思いや行動を地域の活力につなげていくものであり、そのためには、県民の皆さんに「ふるさと福井」に対する誇りや自信を見出していただくことが大切です。

こうしたことから、福井の美しい景観を県の内外に発信し、ふるさとに愛着や誇りを持っていただくとともに、県民の共有財産である景観を守り育てていくことを目的に、平成23年4月、福井県では「福井ふるさと百景」を選定しました。この百景には、多様で豊かな自然、歴史や伝統に培われた町並み、人の営みが息づく農村風景など、「ふるさと福井」を感じさせる景観が数多く選ばれています。本稿では、この「福井ふるさと百景」の目的や選定の経緯、百景の特徴などのほか、百景に基づく県の景観施策を紹介させていただき、県民の皆さんと一緒にあって、福井の誇りである美しい景観を守り育てていきたいと思えます。

キーワード：福井ふるさと百景，百景，景観，景観施策

はじめに

福井県では、「ふるさと納税」や「ふるさと帰住」、「ふるさと知事ネットワーク」など、さまざまなふるさと政策を積極的に推進しています。これらの政策は、県民の皆さんの「ふるさと」への思いや行動を地域の活力につなげていくものであり、そのためには、県民の皆さんに「ふるさと福井」に対する誇りや自信を見出していただくことが大切です。

こうしたことから、平成23年4月、県では「福井ふるさと百景」を選定・発表しました。本稿では、この「福井ふるさと百景」（以下「ふるさと百景」または単に「百景」と記します。）の目的や選定の経緯、その特徴などに加え、ふるさと百景に基づく県の景観施策を紹介したいと思います。

I. 百景の目的と選定の経緯

1. 百景の目的

ふるさと百景は、①福井の美しい景観を県の内外に発信し、ふるさとに愛着や誇りを持っていただくとともに、②県民の共有財産である景観を守り育てていくことを目的に、選定を行いました。この百景には、九頭竜川などに代表される豊かな自然、歴史や伝統に培

われた町並み、人の営みが息づく農村風景など、「ふるさと福井」を感じさせる景観が数多く選ばれています。また、左義長や越前和紙、田楽能舞など、地域の特色あるお祭りや伝統工芸、伝統芸能に至るまで多岐にわたっています。私達が普段あまり気に留めてこなかった風景も、実は外に向って誇れる素晴らしいものであるということにお気づきいただき、このような景観があることを知っていただくことにより、改めて福井の良さを実感していただけると思います。

2. 選定の経緯

県では、平成20年度から県内の景観資源を活かした新たな施策として百景選定についての検討を始め、21年度からは県内市町において各市町の景観賞や景観100選などの取組みを進めていただきました。そして、平成21年10月に、東京農業大学名誉教授の進士五十八先生を座長とする「福井県景観づくり懇談会」（以下「懇談会」と記します。）を設け、翌22年11月から本格的な選定作業を開始しました。具体的には、事務局（県ふるさと地域振興課）が県内全市町と意見交換を行い、各市町の景観賞等で選ばれた素材に加え、自然や歴史、文化などを表す県内の数多くの景観資源を洗い出し、それを懇談会にフィードバックするといった作

図表1 選定までの経緯

平成21年10月	学識経験者等で構成する「福井県景観づくり懇談会」を設置
平成21年度～22年度	県内各市町において景観賞・景観100選等を実施
平成22年11月	懇談会を開催し、百景の選定方法などを協議
平成22年11月～23年3月	懇談会での協議、県内各市町との意見交換
平成23年4月	懇談会を開催し百景を選定、県において決定・発表

業を繰り返しながら選定を行い、平成23年4月に県が最終決定し発表しました（図表1）。

懇談会は、景観やまちづくり、環境、歴史など各分野の専門の先生5人で構成し、幼少期を福井で過ごされた進士座長をはじめ、福井にゆかりのある方ばかりで、数多くの貴重なご意見をいただきました。一例として、後で説明するように、複数の景観をひとまとまりとするにはストーリー付けが必要といったご指摘や、個々のタイトルは皆が行ってみたいくなるようなネーミングが重要といったご意見などが出されました。また、景観づくり活動を行う団体等への支援や観光面での活用などを検討すべきとのご提案もいただいたところです。

II. 百景の特徴

ふるさと百景の特徴としては、①福井を特徴付ける100のテーマを設定、②ひとまとまりの景観で一景を構成、③市町景観賞等も取り入れることで県民の思いを反映、④複数の市町にまたがる広域的な景観も一景として採用の4つを挙げることができます。以下、順に説明していきます。

1. 福井を特徴付ける100のテーマを設定

ふるさと百景は、福井の文化や歴史、自然の豊かさなど、福井を特徴付ける100のテーマで構成されています。100のテーマは、①福井を代表するもの、②希少性のあるもの、③地域の誇りとなるもの、④生活に根ざし親しみのあるものなどの観点から、懇

談会で選んでいただきました。その結果、県内各市町にはそれぞれに良い景観があり、市町ごとに数のバラツキはあるものの、ふるさと百景には17市町すべてが含まれることになりました。ジャンルも自然（山・高原、川・水辺、海）、歴史・文化（歴史、寺社、道、花）、まちなみ（町並み、農山漁村）、産業など多岐にわたっています。また、一景ごとのタイトルも時間をかけてネーミングを検討し、単なる地名のみとせず、その場に行ってみたくなるような、情景が浮かぶようなものとしています（図表2）。

図表2 ふるさと百景一覧

番号	タイトル
1	義経や親鸞も通った 加越国境の旧北陸道
2	20万株の花菖蒲 北潟湖
3	蓮如上人布教の聖地 吉崎御坊
4	文人墨客に愛された名湯 あわら温泉
5	多彩な果樹が迎える 坂井丘陵フルーツライン
6	天下の奇勝 東尋坊
7	北前船の栄華漂う湊町 三国
8	コシヒカリのふるさと 坂井平野
9	田園の中のオアシス 春江ゆりの里
10	日本最古の天守閣 丸岡城
11	桜吹雪舞う悠久の山里 竹田
12	命を育む母なる大河 九頭竜川
13	風を浴びて 永平寺から福井に続く自転車道
14	禅の修行道場 永平寺
15	仰ぎ見る白い頂 霊峰白山
16	恐竜が眠る大地 ジオパーク 勝山
17	春を待つ北谷の山里集落
18	「蝶よ花よ」と囃子が響く 城下町勝山の町並み
19	中世宗教都市の歴史を物語る 白山平泉寺
20	懐かしい機織りの音が聞こえる 奥越のまち
21	大地鳴動の記憶 奥越の巨大岩塊
22	城、町並み、朝市、風情漂う城下町 大野
23	イトヨが生息する名水の里 大野
24	日本百名山 荒島岳
25	越美国境からの清らかな流れ 真名川
26	日本一の星空を仰ぐ 六呂師高原
27	紅葉の刈込池に映る白雪の三ノ峰
28	鮮やかな四季の移ろい 九頭竜湖
29	らっきょうの花咲く 三里浜
30	福井ゆかりの武将を偲ぶ墓所
31	秋風に揺れる1億の花 コスモス広苑
32	福井のシンボル 歴史と自然の足羽山
33	試練を乗り越え咲き誇る 足羽川桜並木
34	路面電車が走る 福井の街角
35	68万石の大藩の面影 福井城址
36	幕末四賢侯 春嶽公の別邸 養浩館
37	歴史に刻まれた名石 笏谷石のふるさと
38	西行が讃えた 朝六つ橋から見た文殊山
39	清らかなせせらぎ 東郷の町並み
40	朝倉氏五代の栄華の跡 一乗谷
41	七たび渡る足羽川 美山の越美北線
42	人と自然が育てた 美山の杉林
43	足羽川源流 冠山と龍双ヶ滝
44	伝統息づく能楽の里 池田
45	農の営みが見える 池田の原風景
46	近松文学のふるさと 吉江
47	つつじの絨毯 西山公園
48	門前町と城下町の面影 鯖江の町並み
49	越前漆器の伝統受け継ぐうるしの里 河和田
50	紫式部が詠んだ 日野山・日野川

番号	タイトル
51	昔懐かしい福武線の木造駅舎
52	丹南のレトロな洋風建築物との出会い
53	菊の香漂う越前の国府 武生
54	1500年の伝統 越前和紙の里
55	小次郎と長寿の水の伝説 水間谷
56	万葉の恋物語の舞台 味真野
57	コウノトリ舞う里山よふたたび 白山・坂口
58	馥郁(ふくいく)たる香り 越前水仙
59	釜茹での湯気立つ 越前がにの水揚げ港
60	日本海の荒波が造った奇岩・奇勝 越前海岸
61	泰澄大師修行の霊峰 越知山
62	太鼓響く鎮守の森 信長公ゆかりの劔神社
63	日本六古窯 越前焼のふるさと
64	農村の伝統美 漆喰の白壁民家群
65	生産量日本一 南条花ハスの里
66	軍事・交通の要衝 北国街道宿場町 今庄
67	竜神伝説 夜叉ヶ池
68	今に伝わる 明治の石積み砂防堰堤
69	海の道と馬借街道の中継港 河野
70	山を越え海を越えた鉄道 今庄～敦賀
71	美味しいそばの原点 福井のそば畑
72	敦賀湾の大パノラマ 杉津の眺望
73	手付かずの自然が残る池河内湿原・中池見湿地
74	運河の遺跡 足田舟川
75	360° 展望の頂 野坂岳
76	そびえる大鳥居 北陸の総鎮守 氣比神宮
77	アジア大陸との交易拠点 国際港敦賀
78	日本三大 気比の松原
79	コバルトブルーの海 水島と色ヶ浜
80	碧く輝く海と白い砂浜 水晶浜
81	海と湖に挟まれた伝統行事息づく漁村 日向、早瀬
82	山頂から望む絶景 三方五湖
83	天狗が踊る 王の舞
84	神宿る半島 若狭常神
85	湖畔に佇む 茅葺きの舟小屋
86	真夏の冷水 名水百選 瓜割の滝
87	若狭から京へ続く鯖街道 熊川宿
88	荒波の彫刻 蘇洞門
89	豊富な海産物と若狭塗 御食国若狭おばま
90	茶屋町の情緒漂う紅殻格子 三丁町
91	古刹と仏像の宝庫 大陸の玄関口 小浜
92	若狭から奈良への歴史大河 お水送り
93	海が舞台の炎の祭 大火勢
94	水上文学のふるさと 佐分利川
95	星降る村 安倍晴明ゆかりの名田庄
96	瓦屋根が連なる 高浜・旧丹後街道
97	足利義満が愛でた奇勝明鏡洞
98	海にそびえ立つ若狭富士 青葉山
99	静かな海、棚田、漁村 風光明媚 内浦湾
100	若狭路満喫 小浜線

2. ひとまとまりの景観で一景を構成

ふるさと百景の最大の特徴は、写真一枚を一景とせず、あるテーマで関連付けられるひとまとまりの景観を一景としたことです。その結果、福井固有の自然、歴史、文化、産業などが複合的に織り成す、福井らしい景観を取り上げることができました。

ひとまとまりの景観を一景とすることで、自然もあり、歴史もあり、人の営みもあるなど、その地域のさまざまな魅力を表現することができ、こうした百景の考え方は、これまでに例がないといえるでしょう。

図表3のひとまとまりの景観の例のように、越前市の「第54景 1500年の伝統 越前和紙の里」でいえば、和紙の里という最

初に紙すきの風景が思い浮かぶと思いますが、これだけでなく、地域にある紙の神様を祀った神社やお祭りなどをひとまとまりとして、越前和紙の里を表現しています。

なお、ふるさと百景の趣旨を考慮し、一般の方が立ち入れない場所や、モニュメントなど景観としての評価が難しいもの、複合景観として福井を表現できない単体の公共施設や樹木などは対象としませんでした。

図表3 ひとまとまりの景観の例



54
1500年の伝統 越前和紙の里
越前市大滝、岩本など

昔ながらのたすまいをみる全国一の和紙産地「五箇地区」。越前和紙を代表する種100%の「生産集落」は、どんなに引っ張っても破ることは難しいという。1500年の歴史に底力を磨く。

越前市の五箇地区は、瓦葺の伝統的民家が並ぶ。背後の山並みと調和した緑豊かな集落景観を形成しています。

五箇地区（大滝、岩本、新在家、定友）は、和紙の伝統工芸が発達し、日本一の手漉き技術を持つと言われ、和紙の里とも呼ばれています。

越前和紙の歴史は古く、今から1500年ほど前、この村の荒川の上流に美しい滝が流れて「この地は清らかな水に恵まれているからこの水で紙漉きをして空針を立てよ」と、ねんごころに紙漉きの技を里人に教えたといわれます。

この教えを受けた人々は、この地を「川上御船」とあがめ奉り筒笠神社（天満神社）を建ててお祀りしました。



伝統工芸 越前和紙
手漉き和紙調染 岩本町民衆館（人間国宝）



神と紙の祭り（奥田町文化財、毎年5月3〜5日開催）
背後の建物は「御立の工芸館」（国登録文化財）



秋葉山からは大滝の家並みが一望でき、瓦葺の建物が並んでいるのが特徴的です。

また、裏入り民家の背後に「うだつ」を上げた独特の形態の原家も残っており、「和紙の里祭り」にある「御立の工芸館」は、「うだつ」の形態をとる紙漉き家屋を移築したものです。



筒笠神社、天満神社、本願寺（五箇地区）



緑豊かな和紙の里通り



伝統的民家が残り並ぶ五箇地区



秋葉山
五箇地区
大滝地区、岩本地区
筒笠神社、天満神社
筒笠神社
20m
国登録文化財

3. 市町景観賞等も取り入れることで県民の 思いを反映

ふるさと百景には、県内各市町がこれまでに実施した景観賞等に寄せられた景観もテーマなどに取り入れることで、県民の皆さんの思いを反映しています。県内の多くの市町では、市町独自の景観賞や景観100選といった取組みを行っていますが、これらの素材を取り入れることで、地域の人しか知らないようなスポットも再発見することができ、ふるさと百景が県民共有の財産になったと思います。

また、ふるさと百景は、県内全17市町の意見を伺い市町と一体となって選定したこと自体が特徴の一つといえます。事務局では市町との意見交換を延べ50回以上行うとともに、各市町の景観主管課の方だけでなく、企画、観光、広報、文化財などの担当課の皆さんにもお集まりいただき、幅広い観点から協議を行うとともに、市町からは多くの写真の提供もいただくことができました。

4. 複数の市町にまたがる広域的な景観も一 景として採用

県内各市町で行われている景観賞等は、当然のことながら、各市町の区域内で完結する景観が主たる対象となっています。

これに対し、ふるさと百景は、県が選定した百景であることもあり、九頭竜川沿川や小浜線沿線といった、複数の市町にまたがる広域的な景観も一景としている点に特徴があります（図表4）。「第12景 命育む母

なる大河 九頭竜川」では、法恩寺山からの眺望に加え、鮎釣りの風景など中流域も含めた広域的な景観を一景としています。また、「第100景 若狭路満喫 小浜線」では、若狭湾の海岸線やのどかな田園風景などに小浜線の電車を溶け込ませ、多種多様な風景を広域的に見せています。

以上、ふるさと百景の4つの特徴を述べましたが、勝山市の北谷集落など観光地ではない景観や、旧北陸道の切通しなど地元の方々しか知らない景観なども数多く含まれています。また、県内最西端の高浜町から見える白山や梅の天日干しの生活風景など、通常は取り上げられないような観光ガイドとは異なる内容となっています。さらに、ふるさと百景は、県の百景として、県全体のイメージ戦略の意味合いも持つという点で、身近にある景観の再発見が主たる目的となる市町の景観賞等とも違いがあるといえるでしょう。

図表4 広域的な景観の例

12
くづりやがわ
命育む母なる大河 九頭竜川
勝山市法恩寺山周辺、永平寺町松岡神明など

福井県一の大河、九頭竜川の豊富な水、速く清らかな流れで育った鮎の味は格別だという。この水は鳴鹿大堰を経て坂井平野を潤す。



法恩寺山から見る雄大な九頭竜川


勝山市にある法恩寺山（標高 1,357m）からは、雄大に流れる九頭竜川と勝山の市街地を一望できます。晴れた日には、坂井平野まで見渡すことができ、ダイナミックな眺望を楽しめます。

勝山弁天坂は、九頭竜川の右岸防壁上約 1.5km にもおよぶ坂道で、昔は見事な桜のトンネルをつくる景下でも有名な花の名所です。総甲（大日山）の御倉と隣りする桜並木は、雪国ならではの景観です。

九頭竜川堤防を彩る勝山弁天桜



九頭竜川（志保橋から下流を望む）



鳴鹿大堰



本公堂で堰わら九頭竜川



写真1は勝山市、②は永平寺町周辺

100
わかさじまんきつ
若狭路満喫 小浜線
福井県南地域

小浜線は車窓が楽しみな。東浜からは海が、荒山を通ると三方五湖が、上中からは北川が、小浜からは小浜湾が見える。釜狭回りの海岸線はずっと海水浴場。香葉山が隣道に見えてきた。



電車の走る風景（東河川鉄橋（敦賀市））



十羽駅（天正6年開業） 坂井車庫駅 坂井温泉駅

小浜線に乗ってみると、三方五湖や若狭湾の海岸線、広大な田舎などの多様な景観を見ることが出来ます。また、若狭町の十羽駅では歴史ある駅舎、若狭本郷駅や若狭高浜駅では近代的な駅舎を見ることが出来ます。特に若狭本郷駅は「国際花と緑の博覧会」の期に使用された「魚虫の駅」を移築したもので、小浜線の駅でも特に豪華な雰囲気を感じていただけます。



紅葉と電車の風景（小浜市小浜大橋）



雪景色と電車の風景（小浜市西谷）



小浜湾と電車の風景（小浜市東谷）



田舎と電車の風景（三方五湖の荒山から若狭の海岸線を望む）



写真1は坂井町、②は東浜町周辺

Ⅲ. 百景に基づく県の景観施策

ふるさと百景の選定を受け、県では、①百景専用ホームページの開設、②巡回パネル展などによる百景の情報発信、③観光資源としての百景の活用、④百景選定地等における景観づくり活動への支援などの景観施策を積極的に進めています。以下、これらの施策についても順に説明していきます。

1. 百景専用ホームページの開設

平成23年4月のふるさと百景の決定・発表と同時に、「福井ふるさと百景」専用ホームページを開設しました（図表5）。このホームページでは、百景の個々の写真とその位置が地図上でわかるようになっており、百景のすべてをPDF資料として取り出せるようにしています。また、「わたしのふるさと百景」のページを設け、県民の皆さんから百景への感想や思い出、とっておきの写真などの投稿をいただくなど、日々変化するホームページを目指しています。12月末現在までに約21,000件のアクセスがあり、平成23年12月からは、国内だけではなく、本県を訪れる海外の方々にも福井の良さを知っていただけるよう、英語版ホームページも開設しました。

2. 巡回パネル展などによる百景の情報発信

県内全市町のご協力をいただき、平成23年6～11月までの間で、県および県内全17市町において巡回パネル展を開催し、19会場場で約11,000人のご来場をいただきました。

来場者の皆さんにも概ね好評で、アンケートでは44%の方々から「非常に良かった」、49%の方々から「まあまあ良かった」とのご感想をいただいています。また、8月のお盆時期には帰省客をターゲットに福井駅東口のアオッサにおいて、また11月には大阪・東京の県人会総会に合わせて、平成24年1月には東京にある県のアンテナショップふくい南青山291において、それぞれパネル展を開催したところであり、県外にお住まいの本県出身の皆さんにも福井を懐かしく思い出していただけたと思います。なお、これらのパネル展の開催経費には、福井を応援していただいたふるさと納税寄附金が活用されています。

次に、テレビ、新聞等による百景のPRについては、平成23年6月から県の広報誌「グラフふくい」でふるさと百景の連載を始めており、7月からは県のテレビ広報番組「おはようふくい730」で毎週スポットで紹介しています。また、8月からは県のメルマガ「ふくい“見えるマガ”」でもシリーズで紹介しているところです。さらに、10月からは、地元紙の紙面においても、週1～2回の頻度でシリーズとしてふるさと百景を取り上げていただいています（図表6、7、8）。

図表5 「福井ふるさと百景」専用ホームページ



図表6 百景の情報発信

- ・県および全17市町を巡回するパネル展の開催
- ・大阪や東京の県人会、南青山291でのパネル展の開催
- ・県広報番組「おはようふくい730」でのスポット紹介、県広報誌「グラフふくい」や県メルマガ「ふくい“見えるマガ”」でのシリーズでの紹介
- ・地元紙での百景紹介記事の連載 等

図表7 パネル展の様子



図表8 地元紙の百景連載記事



福井新聞 23年10月5日



福井新聞 23年11月5日

3. 観光資源としての百景の活用

懇談会でもご意見をいただきましたが、ふるさと百景は、観光面でも積極的に活用していくこととしています(図表9)。

まず、県民から「福井ふるさと百景をめぐるサイクリングコース」の募集を行い、西山公園、鯖江、日野川、和紙の里、味真野などを結ぶコースが選定されました。観

光部局と連携し、観光情報誌「るるぶ福井'12」でふるさと百景の名所を紹介するなどもしています。

また、選定地における絶景ポイントや町並みなどを眺望できるビューポイントの調査を進めるとともに、アクセス情報なども掲載したふるさと百景ガイドブックの発刊なども計画しています。

図表9 百景の観光面での活用

- ・百景をめぐるサイクリングコースの設定
- ・観光情報誌「るるぶ福井'12」で百景の名所を紹介
- ・百景選定地の絶景ポイントや町並みなど眺望できるビューポイントの調査
- ・百景の紹介と併せてアクセス情報等を掲載した百景ガイドブックの発刊 等

4. 百景選定地等における景観づくり活動への支援

百景選定地の美しい景観を守り育てていくためには、行政の規制のみに頼ることなく、地域住民と協働しながら景観づくり活動を進めていくことが大切です。このため、ふるさと百景の選定を契機として、県では百景の選定地等で景観づくり活動に取り組む団体等に対して次のような支援を行い、百景専用ホームページを通じてその活動状況などを発信していくことにより、全県的な景観づくり活動へと広げていきたいと思っています。

(1) 百景選定地の景観保全・活用を行う団体等への支援

ふるさと百景の選定地において、百景の保全・活用に資する活動を行う団体等で市町が推薦するものを「福井ふるさと百景活動団体」に認定し、街並みを活かした花植え、夜間景観の演出、水路の復元等の実践活動や勉強会の開催などに対し、立ち上がり支援として年間20万円、2年間で限度に助成を行います。

平成24年2月に初めて6団体が認定されました。

(2) 伝統的民家群保存活用推進地区の指定と景観づくり活動団体等への支援

伝統的民家や蔵などが形成する福井らしい集落景観を「面」として保全していくため、ふくい伝統的民家が集積する地区を「伝統的民家群保存活用推進地区」に指定し、地区内での景観の保全・活用等の取組みに対し重点的に支援を行います。この推進地区は、①伝統的民家が10戸以上の集落、自治会等で、②伝統的民家を保全する意向があり、集落や街並み景観を活かした地域づくり活動を実施する地区をいい、指定を受けた地区内で景観づくり活動を行う団体等に対して(1)と同様の助成を行います。また、通常の伝統的民家の改修等に対する補助に加え、地区内にある単体の土蔵や門、塀などの改修に対しても補助を行っていきます。

平成23年12月に初めての指定地区として、①大野市七間通り地区、②勝山市平泉寺地区、③越前市四町地区、④越前市五箇地区、⑤北国街道今庄宿地区、⑥高浜町旧丹後街道沿道地区の6地区が選ばれました(図表10)。

図表10 伝統的民家群保存活用推進地区（平成23年12月指定分）



大野市七間通り地区



勝山市平泉寺地区



越前市四町地区



越前市五箇地区



北国街道今庄宿地区



高浜町旧丹後街道沿道地区

以上、ふるさと百景に基づく県の景観施策の内容を説明させていただきましたが、これらの施策を通じ、福井の美しい景観を県の内外に発信し、ふるさとに愛着や誇りを持っていただくことにより、県民の共有財産である景観を守り育てていきいと考えています。

おわりに

ふるさと百景の選定を一つの契機として、福井の素晴らしい景観を県民の皆さんに知っていただき、身近にある景観を大切にしていけることが、県外の方々にも感動を与え、福井に行ってみたいと思わせることにもつながることと考えます。また、百景の選定を経て、大切な景観を保全・活用していく基礎は整ったといえますが、これらを実際に県民の共有財産として守り、育て、次の世代へとつなげていくためには、県民の皆さんと一体となって取り組んでいくことが必要です。

こうしたことから、ふるさと福井に残る美しい景観の保全とともに、地域の特色を活かした景観の創造に向け、景観づくりの進むべき方向や実効性ある施策の推進等について広く意見や助言を得るため、平成23年11月に「ふるさと福井景観づくり懇談会」を設けました。同懇談会は、景観、建築史、デザインを専門とされる先生方だけでなく、観光やマスコミ、文化面でご活躍の方々や伝統的な町並み、地域の料亭などを守られているの方々など、幅広い分野の皆さんに委員にご就任いただき、今後取り組むべき県の景観施策について、県民の視点からご意

見、ご助言をいただくこととしています。

景観は自然、歴史、文化など様々な要素で構成されており、施策の推進に当たっては、行政においても関係する部局の連携が大切であり、県においても、観光、農林水産、土木、文化財などの部局が一体となって取り組んでいきます。また、県内市町ともさらに連携を密にするとともに、何よりも県民の皆さんと一緒に、福井の誇りである美しい景観を守り育てていきたいと考えています。

(執筆 課長 江端誠一郎)